

# NPO法人 瑞穂町体育協会 & 町議会

昭和37年に野球・卓球・剣道・庭球の4団体でスタートし、現在では、19団体約2,980名を擁する協会に発展。平成21年に特定非営利活動法人格を取得し、平成24年11月には創立50周年を迎え、長年にわたり瑞穂町のスポーツ振興を支えてきた瑞穂町体育協会役員の方々にお集まりいただき、お話を伺いました。

## 素晴らしい仲間との出会い、交流は財産、宝物

Q 体育協会に入ったきっかけは？

―長年バドミントンをやってきて、連盟も立ち上げて会長を務めてきた。その関係からですかね。  
―陸上クラブに所属していた。その仲間から声が掛かって。  
―体育指導委員（現スポーツ推進委員）をやっていたんです。そんな折、「来なさい！」「はい！」そんな勢いで。  
―仕事の関係でもあまり時間のない中、土日活動できるソフトボール連盟に入っていた。それが縁になったのかな。

Q NPO法人立ち上げの経緯や苦労されたことは？

―当時、文化・スポーツは行政主体の社会教育から、住民主体の活動に発展していくべきでは、といった流れになっていた。  
―町からも法人化を促され、話をしながら準備を進めることになった。  
―今は、その時の会長さんたちはおられませんが、町の積極的な協力もあって、スムーズに立ち上げができたという行政関係の仕事をしてきたことを買われたのか、かかわるきっかけになった。

Q どんな活動をされているんですか？

―事務局では会議資料の作成や参加団体の利用調整など、結構忙しいですよ。  
―町の委託事業の運営。ウォーキング、運動会、スキー教室、駅伝…。  
―会長はもっと時間があるかと思ったら、東京都や西多摩地域など各協議会の会議も多いし、町の会議もあって、ほぼ毎日のように予定が入ります。



(左から) 石井 正次さん 島崎 隆太郎さん 石山 正志さん 小川 峰義さん

Q これまでにどんなスポーツをされてきましたか？

―高校までは卓球。社会人になってからバドミントンを始めた。  
―今はスキーとダンス。47歳の時スキーのインストラクターの資格も取って。子どもどころは秋田だったからスキーは遊びだったんだけどね。  
―学生の時は陸上部だった。今も走ってます。山中湖畔のマラソン大会にも参加してるんですよ。それに長年、審判もやっています。

Q 活動していて良かったなと思うこと、大変だなと思うことは？

―素晴らしい仲間との出会い、交流は財産、宝物。  
―スポーツは、誰もがいい方向へ、一緒に目指していける。  
―地域に貢献しようという思いもあって活動しているけれど、たくさんの人と知り合いになれて本当に良かった。友達が私の財産。  
―大変だと思ったことはない。すべて、自分のためになることだと思っている。自分を大切に思い、自分のために取り組むことは、人や町のためになっていくものと思ってるから。  
―思った以上にフルスケジュールなので、法人として、労働時間の管理には気を遣うかな。  
―いろんな人と知り合えて、意見を聞けて、参考になります。

Q 昭和39年の東京オリンピックの思い出は？2020東京オリンピック・パラリンピックへの思いは？

―当時は聖火が近くを走ったって、聞いたかなあ。  
―そんなに盛り上がってなかった。テレビで見たなあ。  
―2020オリパラに向けて、スポーツに対する関心が高まっているので、ジュニアもシニアもスポーツ活動に参加してほしい。

Q PRをお願いします。

―「町民皆スポーツ」を目指しています。これからは競うだけでなく、楽しく、気軽に参加できるスポーツを広げたい。  
―スポーツは仲間づくり、健康づくりにつながります。互いに声掛け、支えあい、元気であつたかい瑞穂町をつくりたい。皆さん、一緒にやりましょう。

Q 「ギカイのひろば」に一言。

―表紙は見てます。  
―一般質問のところ、読んでます。町の現状や、課題とかが見えるから。  
―スポーツのこと、あんまりないなあ…。  
―特集ページいいですね。活躍している団体さんなんかを知ることができて。

参加してくださったNPO法人瑞穂町体育協会の皆さん、ご協力ありがとうございました。

